

令和 5 年度 神河町社会福祉協議会 事業報告書兼地域福祉推進計画 3 年次報告書

〈総 括〉

長く続いたコロナ禍の影響も消えない中、国際的な紛争等に端を発する価格高騰の影響により、生活に困窮する方々が抱える課題は深刻度を増してきました。当町でも生活困窮に関する相談は増えており、逼迫した生活状況の相談者に対する緊急支援とあわせて、相談者に寄り添いながら生活の立て直しを目指す継続的な支援を実施してきました。

しかし、「生活困窮者支援体制強化（ほっとかへんネットワーク配置）事業」の補助金を活用した職員体制の強化については、中途採用した職員の早期退職により実現せず、現在も募集を続けている状況です。

介護サービス事業では、長く続けてきた訪問入浴サービス事業を令和 5 年 11 月上旬に廃止しました。理由としては看護職員の確保ができなかったため、折込みチラシ、告知放送など人材確保に力を尽くしましたが、残念ながら採用することができず、事業廃止に至りました。このことは、在宅介護の要という社会福祉協議会（以下、「社協」という）の役割を果たすことが出来なくなる苦渋の決断でした。

このように人材確保に苦しんだ 1 年でしたが、訪問介護事業所及び多機能型事業所ひと花では営業日を拡充し、在宅介護サービスの安定的提供や障がい重い方の生活の場と居場所の更なる充実を図りました。

地域においては、活動を再開した集いの場の活動支援を引き続きおこなうとともに、集落（第 3 層）協議体、ブロック（第 2 層）協議体の運営支援を続けてきました。地域自治協議会が発足することにより協議体の開催を見合わせている集落もある中、集落協議体の新たな立ち上げと継続が課題となっていますが、圏域を広げた住民同士の見守りや支えあいを進めていくために、地域自治協議会で福祉分野について話し合う場をブロック協議体に位置づける働きかけを重ねてきました。

令和 6 年元日に発生した「能登半島地震」では、社協窓口などに募金箱を設置し、集まった募金（10,095 円）を義援金として中央共同募金会を通じて被災地に寄付しました。今後も被災地の早期復興のために当会として出来る支援をおこない、あわせて当町における防災、減災意識の醸成にも力を注いでいきます。

重点活動

1. 令和 5 年度は、「社協第 3 次地域福祉推進計画」の推進期間の中間年度であることから、当時の策定委員を中心に新たに評価委員会を設け、3 年間の進捗状況の確認と評価をおこないました。計画はおおむね順調に進んでいますが、計画の推進が滞って

いる項目に対しては内容の見直しをおこない、活動目標の達成に向けて今後も取り組みを進めていきます。

2. 「生活困窮者支援体制強化（ほっとかへんネットワーク配置）事業」補助金を活用し、令和6年1月から1名の嘱託職員を採用して社協の職員体制強化を図りましたが、当該職員の体調不良により2月末での退職となりました。そのため、従来の職員体制で生活困窮者支援業務を兼務している状況ですが、相談者のお話を丁寧に聞き取りながら、関係機関と協働して必要な支援をおこないました。
3. 引き続き職員間で担当業務を短期的に交代し、異なる目線での点検評価をおこない、事業の効率化を図りました。
4. 訪問介護事業所は土・祝日、多機能型事業所ひと花は平日の祝日の営業を本格実施し、介護サービス及び障がい者福祉を更に充実させました。また、慢性化している人材不足を補うことを目的に、県から「介護業務における業務効率化支援事業補助金」の交付を受け、ICT（情報通信技術）の導入をおこないました。

○第3次地域福祉推進計画3年次の報告

活動目標1 違いを認め合う福祉教育をいろんな世代ですすめよう！

- *福祉出前講座を企画し、地域の集いの場ボランティアや老人クラブ、民生委員児童委員に周知しましたが、令和5年度は実績がありません。
- *神崎高等学校における「地域共生社会」をテーマにした講義や車いす体験の実施の他、盲導犬協会、手話や点字のボランティアの紹介など、各校の福祉学習を支援しました。

活動目標2 ひとりぼっちをつくらない地域にしよう！

- *引き続き地域の集い場の再開支援をおこないました。また、歩いて行ける場所での集い場を開設し、集落の集いの場に参加しづらい方の外出の機会を作りました。
- *社協広報紙において、繋がりづくりの第1歩である“あいさつ”や“声かけ”を啓発しました。

活動目標3 見守りあい、支えあう仕組みづくりをすすめよう！

- *引き続き集落協議体の運営支援をおこなうとともに、越知谷地域自治協議会の安心部会（＝ブロック協議体）に生活支援コーディネーターが参加し、安心カプセル

の配布と有償助け合い活動の立ち上げ準備を支援しました。また、地域自治協議会事務局連絡会議に参加し、地域自治協議会において見守り支えあいを話し合う場のブロック協議体としての位置づけを依頼し、令和6年度から新たに3ブロックへの参加が決まりました。

- *地域の資源と課題の見える化を目的に、町内の集いの場と福祉サービスの一覧を作成するとともに、これまでに生活支援コーディネーターが把握した地域の課題を集約し、神河町見守り支えあいネットワーク会議（＝第1層協議体）において解決策を検討しました。

活動目標4 身近な困りごとをキャッチしてつなごう！

- *相談に来られた住民に寄り添い、安心して相談出来る雰囲気づくりに心がけました。また、丁寧に聞き取りをおこない、関係機関とも協働して課題解決にあたりました。
- *来所することが困難な方に対しては、ご自宅に訪問して相談を受け、サービスを紹介したり関係機関に繋いだりなど悩みごとを相談しやすい環境を作りました。

活動目標5 誰もが活躍する場をつくろう！

- *引き続き、多機能型事業所ひと花の利用者一人ひとりが持つ力を発揮して、墓掃除や庭の掃除、コープの見守り個配サービスなどをおこないました。
- *高齢者の社会参加と介護予防について、シニアカレッジや社協広報紙で啓発をおこないました。

活動目標6 みんなでボランティアの輪をひろげよう！

- *社協の福祉事業にご協力いただいている事業所を社協広報紙で紹介するとともに、「ちょっといいこと運動」の啓発も継続しておこないました。
- *ボランティア活動への関心を高めるため、引き続き社協広報紙で町内のボランティアグループを紹介しました。

活動目標7 先への不安を取り除く福祉活動を展開しよう！

- *生活福祉資金特例貸付借受世帯の償還状況を把握し、滞納世帯に対しては電話等で生活状況を聞き取り、必要に応じて償還免除や償還猶予の手続きの支援をおこないました。
- *「フードバンクはりま」や自立支援相談機関の「神戸の冬を支える会」と連携し生活困窮者支援を必要としている人に情報や食料を届けたり、逼迫した世帯に対しては福祉ぷちショップの売り上げを財源に緊急支援をおこないました。

- *福祉給食サービス事業は、あじさい苑の継続した使用が困難になることから、令和6年1月から神崎エリア（火曜日）も大河内保健福祉センターでの調理に切り替え、安定した事業継続に努めました。
- *町内の福祉施設からも協賛金をいただき、市川町社協と共催で「介護職員実務者研修」を実施しました。また介護福祉士資格取得を目指す方のサポートもおこないました。

活動目標8 地域で防災・減災に取り組もう！

- *災害時の参集基準や支援体制を定めた社協災害対応マニュアルの改定及び、危機的な状況下で重要な業務をどのように継続的に実施するかを示した「事業継続計画（BCP）」の策定をおこないました。
- *集落における福祉防災マップの作成協力については、実績はありません。
- *郡内社協の災害時の連携方法の検討については、令和6年度への持ち越しとなりました。

○各事業の報告

1. 法人組織運営

(1) 理事会・評議員会・監事監査

※○、□数字は議案番号を示す

| 開催日 | 会議の名称 | 協議内容 | 出席者 |
|-------------|----------------|---|----------------------------|
| 5月23日 | 決算監査 | *令和4年度神河町社協事業報告並びに会計監査 | 監事 2名 会長 |
| 5月29日 | ○第104回理事会 | ①令和4年度神河町社協事業報告並びに会計決算 ②「すぱーく神崎」施設の町への譲渡 ③評議員選任・解任委員会への評議員候補者の推薦 ④任期満了に伴う役員候補者の選定 ⑤定時評議員会の招集並びに提案議案承認 | 理事 8名 監事 2名 |
| | 第11回評議員選任解任委員会 | *退任に伴う評議員候補者4名の選任 | 委員 3名 会長 |
| 6月19日 | □第58回定時評議員会 | ㊦令和4年度神河町社協事業報告並びに会計決算 ㊧任期満了に伴う理事及び監事の選任 ㊨「すぱーく神崎」施設の町への譲渡 | 評議員 21名 会長、副会長 監事 1名 |
| | ○第105回理事会 | ⑥任期満了に伴う会長、副会長の選定 会長：秋山紀史氏 副会長：中島富久代氏 | 理事 8名 監事 1名 |
| 8月25日 | ○第106回理事会 | *休止中の訪問入浴介護事業所及び障がい者相談支援事業所について | 理事 7名 監事 2名 |
| 11月8日 | 中間監査 | *令和5年度上半期の神河町社協事業報告並びに会計監査 | 監事 2名 会長 |
| 11月24日 | ○第107回理事会 | ⑦令和5年度神河町社協会計第1次補正予算 ⑧次回評議員会の招集並びに提案議案の承認 | 理事 7名 監事 2名 |
| 12月5日 | □第59回評議員会 | ㊦令和5年度神河町社協会計第1次補正予算 | 評議員 16名 会長、副会長 監事 1名 |
| R6 2月21日 | ○第108回理事会 | ⑨令和5年度神河町社協会計第2次補正予算 ⑩令和6年度神河町社協事業計画並びに会計予 ⑪次回評議員会の招集並びに提案議案の承認 | 理事 7名 監事 2名 |
| 3月25日 | □第60回評議員会 | ㊦令和4年度神河町社協会計第2次補正予算 ㊧令和5年度神河町社協事業計画並びに会計予算 | 評議員 23名 会長、副会長 |

(2) 役職員研修会

社協では今後、地域共生社会の実現を目指し、引きこもり支援にも注力したいと考えています。そこで、引きこもりの要因のひとつである精神障がいについての理解を深めることを目的に、精神障がいピアサポーターグループひすいの友の皆さんをお招きし、9月15日に役職員を対象にした研修会を実施しました。

精神障がいを持ちながら生活する中での困りごとを伺い、社協が担うべきことの検討を進めます。

(3) 第3次地域福祉推進計画評価会議

2回にわたって評価会議を開催し、地域福祉推進計画の進捗状況の評価をおこないました。

◎評価委員

| 氏 名 | 氏 名 |
|---------|-------------|
| 三 谷 伸 子 | 戸 田 賢 二 |
| 前 田 順 子 | 方 山 紀 代 子 |
| 立 岩 千 咲 | 高 津 佐 智 香 子 |

敬称略

| | 開催日 | 評 価 項 目 |
|-------------|--------------|---|
| 第1回 評価会議 | R6年 1月31日 | 活動目標①「違いを認め合う福祉教育をいろんな世代ですすめよう！」 活動目標②「ひとりぼっちをつくらない地域にしよう！」 活動目標③「見守りあい、支え合う仕組みづくりを進めよう！」 活動目標④「身近な困りごとをキャッチしてつなごう！」 |
| 第2回 評価会議 | R6年 2月15日 | 活動目標⑤「誰もが活躍する場をつくろう！」 活動目標⑥「みんなでボランティアの輪をひろげよう！」 活動目標⑦「先への不安を取り除く福祉活動を展開しよう！」 活動目標⑧「地域で防災・減災に取り組もう！」 |

(4) 住民や利用者等からの指摘や苦情および業務中の事故について

＊町内事業所ケアマネジャーより、「訪問入浴事業が休止することの説明がいきなり文書1枚送られてきたただけだが、これでは説明不足ではないのか」

⇒事前に口頭で内容を伝えてはいたが…。今後は出向いて説明することとする。

＊ひと花職員Aが情緒不安定になった利用者から不意に顔面に平手打ちをされ、強い精神的ショックを受ける。

＊ホームヘルパーBが利用者宅訪問時に繋ぎ方が甘い状態の飼い犬に左ふくらはぎを噛まれ、1針縫うケガを負う ⇒ 労災適用

＊ホームヘルパーCが原付バイクで訪問先に向かう途中でハンドル操作を誤り転倒。胸部を強打するなどし、2カ月間休業となる ⇒ 労災適用

＊訪問先でホームヘルパー2人が車いす利用者を介助中、作業に気を取られ見守りが不十分となり、利用者が体を揺らし車いすから転落 ⇒ ケガはなし。家族等に事情報告

＊歩行が不安定なひと花利用者がバランスを崩して転倒し、臀部を強打。骨折の恐れがあるために救急車で病院搬送。⇒ 家族等に連絡。町役場には事故報告。

2. 自主財源の確保（募金・預託関係）

（１）「善意の募金運動」

6月に各世帯へ、ポケットティッシュと使途説明書をつけて募金協力を呼びかけ、集落内の取りまとめを区長さんに依頼しました。募金の目安額はこれまでどおり300円。

| 年 度 | 募金額 | 前年度比較 |
|-----|-------------|--------|
| 3年度 | 1,013,976 円 | － 3.1% |
| 4年度 | 1,022,733 円 | ＋ 0.9% |
| 5年度 | 1,019,747 円 | － 0.3% |

※町内公共施設に設置の「窓口募金箱」実績を含む。また令和5年度は、神河中学校募金(11,588円)、中播磨健康福祉事務所(11,000円)、町内個人商店(5,000円)からの募金も含む。

（２）社協会費

① 一般会費

6月に区長さんを通じ、一般会費について納入協力を求めました。

| 年 度 | 納入額 | 納入戸数 | 加入率 |
|-----|-------------|---------|-------|
| 3年度 | 3,379,000 円 | 3,379 戸 | 80.1% |
| 4年度 | 3,341,000 円 | 3,341 戸 | 79.3% |
| 5年度 | 3,319,000 円 | 3,319 戸 | 78.9% |

② 特別会費

6月に88事業所に対して一口1,000円×口数の特別会費の納入協力を求めたところ、新しく協力していただいた事業所が1件、再開した事業所が2件ありました。

| 年 度 | 納入額 | 内訳 |
|-----|-----------|------|
| 3年度 | 543,000 円 | 84 件 |
| 4年度 | 529,000 円 | 81 件 |
| 5年度 | 551,000 円 | 84 件 |

（３）善意銀行預託

『社会のために少しでも役に立つことをしたい』という善意の気持ちを金銭でお預かりし、地域福祉の推進のために活用します。広報紙の預託者紹介でメッセージ欄を設け啓発に取り組んでいますが、寄付件数は横ばいの状況です。

| 年 度 | 預託総額 | 件数 |
|------|-------------|------|
| 3 年度 | 2,038,946 円 | 66 件 |
| 4 年度 | 1,900,901 円 | 68 件 |
| 5 年度 | 2,075,583 円 | 67 件 |

※社協事務所に設置の「窓口募金箱」実績を含む

3. 当事者を支援する活動

(1) 福祉給食サービス事業〔※共同募金配分事業（一部）〕

対象者の安否確認を目的として、独居世帯等に 1 食 200 円で夕食のお弁当を週 1 回配食しています。業者（にしはた、しあわせのひなた、神崎フード）にも調理委託をおこないサービスを継続していますが、さらに調理担当の空白を埋めるため、新たな業者開拓として、コープこうべの弁当の試験実施を 2 回おこないました。また、今年も 6～7 月に神崎高校の生徒 17 名が配食に参加し、利用者に大変喜ばれました。なお、調理室についてはあじさい苑の老朽化が進み、この先あじさい苑の継続した使用が困難になることから、今後も利用者へ安定して弁当を届けられるよう、1 月以降は全て保健福祉センターでの調理に切り替えました。



| 年度 | 利用者数 | 配食総数 | 調理ボランティア | 配食ボランティア |
|------|-------|---------|----------|----------|
| 3 年度 | 112 人 | 4,059 食 | 21 グループ | 45 名 |
| 4 年度 | 117 人 | 3,655 食 | 21 グループ | 43 名 |
| 5 年度 | 109 人 | 3,474 食 | 22 グループ | 36 名 |

(2) まちの子育てひろば活動支援

申請のあった 6 団体に対し総額 177,840 円の助成をおこないました。また、8 月には連絡会を開催し、ウィズコロナの子育てひろば活動について意見交換をおこないました。



(3) たまゆらの会（介護者の会）事務局

意見交換会やレクリエーション活動などを月 1 回実施しています。9 月の定例会では専門職（楽護会）を招いて介護技術セミナーを開催しました。一般の介護者にも参加いただき、「楽しく介護するためのコツ」について学びました。



*会員数 16 名 *社協助成 50,000 円

(4) 老人憩いの日設定事業

赤十字奉仕団との共催事業として、今年度より町内 77 歳以上のひとり暮らし高齢者対象にグリーンエコーで 9 月 22 日に実施した会食会に、63 名の参加がありました。4 年ぶりに集い形式での開催となり、久しぶりに出会う方も多く和気あいあいと会話が弾み、赤十字奉仕団員や職員によるお楽しみ会に会場は大変盛り上がり交流も深まりました。しかし、参加数が対象者の 2 割強に止まっており、実施方法が課題となっています。

②
ひとりぼっちをつくらない

(5) グリーフケアサロン 【※共同募金配分事業】

家族を失ったことで生じる喪失感や後悔の念を癒す(グリーフケア)ためのつどい場を 3 月 3 日に開催しましたが、今回は 2 名の参加に止まりました。「誰にでも話せないことを職員さんが丁寧に聞いてくれた。」「安心して話しができてよかった」との感想が出ました。

②
ひとりぼっちをつくらない

(6) 福祉バザー、福祉ぶちショップの開催

住民の方より無償提供を受けた生活用品や食料品などを安価で販売する福祉バザーを、かみかわ文化祭芸能発表会(11 月 3 日)に合わせてグリーンデルホール前で実施しました。神崎高校からも品物提供や当日の準備、販売のご協力をいただきました。また、3 月には社協窓口前で福祉ぶちショップを開催しました。

これらの収益は、生活に困られた方の緊急支援費用に充てています。5 年度は 2 名の方の生活費と滞納している電気料金を立替え、内 1 名の方からは返金がありました。

⑦
先への不安をなくす福祉活動

(7) 子育て世代支援事業“おゆずりプラザ”

使用せずに眠っている子育て用品を社協が譲り受け、それを子育て中の方々へ無料あるいは安価で譲り渡す“おゆずりプラザ”を 3 月に実施しました。

約 40 名の方々から預託いただき、延べ 35 組の子育て世代がプラザに来場しました。

③
見守りあい、支えあうしくみづくり

⑦
先への不安をなくす福祉活動

(8) 歳末たすけあい募金配分活動

神河町共同募金会を通じて町民の方々にご協力いただいた歳末募金をもとに、社協が次の活動を実施しました。配分金総額は 1,981,054 円でした。

- ① 在宅で介護が相当必要な方(50 人)へ見舞品を配布
- ② 準要保護児童生徒就学援助費を受給されている小学校児童、中学校生徒(74 人)に支援金を配布
- ③ ひとり暮らし高齢者等(10 人)への年末大掃除の代行サービスを提供
- ④ 年末年始を独りで過ごされる独居高齢者(34 人)におせち弁当を配食

③
見守りあい、支えあうしくみづくり

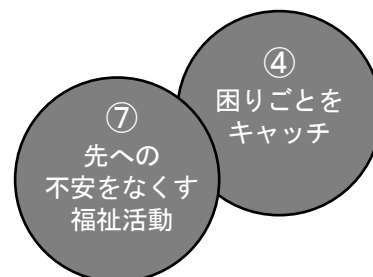
- ⑤ 1歳を迎えたお子さん（30人）に家計支援のための紙おむつ2袋を配付
- ⑥ 子育て世帯を対象にした親子イベントへの助成
- ⑦ 体が不自由な方への外出旅行「遠くへ行こうデー」の開催（1月17日）

4. 住民安心サービスの提供

（1）生活福祉資金の貸付事業（※県社協からの委託事業）

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯に対し、資金の貸付けをおこなうことで経済的自立と、社会参加を促します。

新型コロナウイルスの影響で生活困窮に陥った方を対象とした緊急小口資金と総合支援資金の特例貸付は償還が順次始まっており、資金を利用された方への生活状況の把握をおこないながら、必要な方には免除申請や猶予申請（1年間の償還の延長）の手続きを支援しています。



①福祉資金 《生活課題の解決と自立を支援するための一時的費用》

→ 新規貸付や貸付償還中はなし

②教育支援資金 《高校、大学等への入学のための費用や在学中の授業料》

→ 新規貸付0件。貸付状況は1件500,000円。これまで滞納中でしたが、当会から生活状況を尋ねるなど償還への働きかけを続け、昨年10月から償還が再開されました。

③総合支援資金 《失業者が就労するまでの再建のための生活費用》

→ 新規貸付0件。現在の貸付状況は5件2,940,000円。そのすべてが滞納中。

④特例貸付【緊急小口資金】

《新型コロナウイルスの影響で休業し、緊急かつ一時的に生計維持が困難となった場合の生活費用》

→ 総計65件（実人数59人）貸付総額10,480,000円

このうち、31件が住民税非課税世帯、2件が生活保護世帯で償還免除、14件が滞納中、13件が償還中、2件が猶予中、2件が償還完了です。

⑤特例貸付【総合支援資金】

《緊急小口資金の貸付けを受けてもなお生活困窮が続く場合の生活費用》

→ 総計92件（実人数41人）貸付総額5,280,000円

このうち、21件が住民税非課税世帯、2件が生活保護世帯で償還免除、12件が滞納中、7件が償還中、1件が猶予中、4件が償還完了、39件が据置期間中

（2）生活保護受給予定者への一時支援資金貸付《※本会独自事業》

生活保護申請をしてから最初の保護費を受け取るまでに、手持ちの生活費用が無い方に、役場担当課と相談しながら必要最低限の生活費を立替え、保護費受給時に一括返金してもらいます。今年度は1名の方が利用されました。



(3) 日常生活自立支援事業《※県社協委託事業》

「通帳が見当たらず何度も再発行する」「お金の計算に疎くなった」など、認知症や障がいなどにより判断能力が十分でない方の通帳や印鑑を預かり、日常の金銭管理を支援しています。利用者数は8名（新規利用0件、利用終了3件〔施設入所や成年後見人が選任されたため〕）。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

(4) 「暮らしの安心相談」と「法律相談」〔※共同募金配分事業〕

就労や相続などについての有識者、行政相談委員、人権擁護委員が相談に応じる「暮らしの安心相談」を偶数月に、兵庫県弁護士会から派遣された弁護士による「法律相談」を奇数月に開催しています。

| | 暮らしの安心相談 | 法律相談 |
|-----|----------|------|
| 3年度 | 12件 | 30件 |
| 4年度 | 10件 | 34件 |
| 5年度 | 12件 | 35件 |

④
困りごとを
キャッチ

(5) 日常生活用具貸与事業

骨折や病気などで身体機能が一時的に低下された方へ、介護用手動ベッドや車いすを貸出しています。長期間（4年以上）ベッドや車いすを使用された方から使用料として5,000円/年を負担していただいております、8件（40,000円）の納入がありました。

| | 介護用ベッド | 車椅子 |
|-----|--------|-----|
| 3年度 | 3件 | 14件 |
| 4年度 | 1件 | 9件 |
| 5年度 | 4件 | 20件 |

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

(6) 外出困難者支援サービス事業〔※共同募金配分事業〕

道路運送法に定める「福祉有償運送事業」として、車椅子を要する方を対象に、スロープ付の福祉車両を用いて神崎総合病院等へ受診のための送迎を実施しています。

町から依頼を受けたコロナワクチン接種の送迎は、7名が利用されました。

| | 利用者数 | 利用回数 |
|-----|------|------|
| 3年度 | 24人 | 284回 |
| 4年度 | 25人 | 439回 |
| 5年度 | 35人 | 464回 |

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

(7) 福祉車両の貸出し

歩行が困難な方の家族に、車いすのまま乗れる福祉車両（平成 25 年度姫路十字会寄贈）の無料貸出しを行っています。無記名式の自動車保険に加入し、運転者の運転免許証の確認をおこなうなど、安全な事業運営に努めています。人身・車両事故はありません。

| | 貸出回数 |
|------|------|
| 3 年度 | 77 回 |
| 4 年度 | 71 回 |
| 5 年度 | 47 回 |



（８） お買い物送迎サービス

車を持たない高齢者の買物支援を目的に、町内全域を対象に 3 ルートを設定し、毎月 1 回自宅から町内の希望する商業施設まで乗り合いでのお買い物送迎を実施しています。コロナ後も新規利用登録者がほとんど無く、ルートによっては 1 回 1～3 名の利用となっており、事業の継続が危惧されることから、町内の買物資源やニーズを分析しながら、買い物に困っておられる方に果たす社協の役割や事業方法について検討を進めています。

| | 延べ利用者数 |
|------|--------|
| 3 年度 | 126 人 |
| 4 年度 | 131 人 |
| 5 年度 | 125 人 |



（９） 生活支援コーディネーター委託事業

引き続き、各集落での協議体の運営支援をおこなっています。第 2 層協議体（ブロック協議体）では、4 月に発足した越知谷ブロック地域自治協議会の安心部会に参加し、「命のカプセル」の全戸配布及び有償助け合いサービスの実施に向けて話し合いを重ね、計画通りに事業を進めました。また、他ブロックの地域自治協議会の関係者にも説明をおこない、見守り支えあいの分野の話し合いへの参加について理解を得ました。

シニアカレッジ教養講座の公開講座(8/10 開催)では、夢こらぼ主宰の松尾やよい氏を講師に招き、高齢者の社会参加と介護予防、地域共生社会の実現をテーマにした講演をおこないました。

歩いて行ける場所での集いの場開設の希望を受け、上越知最寄り（越知区）の高齢者の集いの場を薬師堂に開設しました。参加者は、月に 1 度の体操とおしゃべりを楽しみにされています。



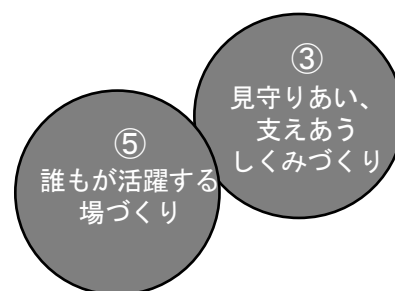
（10） 生活困窮者支援体制強化事業（ほっとかへんネットワークカー配置事業）

生活福祉資金特例貸付の借受人の償還支援をはじめ、生活困窮者が抱える生活課題の解消に向けた相談支援を充実させることを目的に、県社協から約 520 万円余りの補助を受け、専門の職員（兼務）を配置しました。今後は専従職員が望ましく、引き続き職員募集をおこない人員確保に努めます。なおこの事業に対して補助金が 12 年間支給されます。



(11) 見守り個配サービス

令和4年1月からコープこうべとの連携事業として、高齢者宅へひと花の利用者と職員が毎週1回、コープ商品を配達(200円/件)しており、併せて安否確認と談笑を楽しんでいます。サービス利用者は8名(4人増、4人減)。



5. 福祉学習・福祉啓発の取り組み

(1) ボランティア推進活動校助成事業〔※共同募金配分事業〕

福祉学習、ボランティア活動に取り組まれる学校に対する助成事業で、今年度は町内すべての学校(5校)へ総額394,251円の助成をおこないました。また、5月に連絡会を開催し、地域共生社会の実現に向けた福祉教育の展開について依頼するとともに、各学校の取り組みについて情報交換をおこないました。

各学校が実施する福祉教育について相談を受け、講師紹介などの支援もおこないました。

| | | | | |
|-------|--------|-------------|--------|------------|
| 〈助成額〉 | ・神崎高校 | … 100,000 円 | ・神河中学校 | … 7,996 円 |
| | ・長谷小学校 | … 100,000 円 | ・寺前小学校 | … 86,255 円 |
| | ・神崎小学校 | … 100,000 円 | | |



(2) “ちょっといいこと運動”

町内全てのボランティア推進活動校に対して、夏休みに“ちょっといいこと運動”への参加を依頼し、9割近い児童生徒が参加しました。

小学生は、自分の行いが家族や地域の役に立ち喜ばれることで自分に自信を持ち、中高生は、自分が周りの人に親切にされた感謝の気持ちを今度は自分が周りの人に返していきたいという思いを持てました。



(3) 福祉教育として学校等への出張講師

職員が高校へ出向き、社会福祉について講義した後、地域共生社会をテーマにしたグループワークをおこないました。

また、ケアステーションかんざきとも連携し、車いす体験を実施しました。

・神崎高等学校(3回) …… 講義、車いす体験2回



(4) トライやるウィーク受入れ

今年度は当会を希望する生徒がいませんでした。

(5) タイムレター〔※共同募金配分事業〕

青少年の健全育成を願うため、中学3年生に親への感謝の気持ちを手紙に書いてもらい、それを社協が大切に保管し、10年後に家族のもとへ発送します。中学校の協力も得られ、今年度もほぼ全員となる72人の生徒さんからの大事な手紙を預かりました。

6. ボランティア活動の推進

(1) ボランティア登録状況

ボランティア活動をされる方が社協ボランティアセンターに登録されることで、ボランティア活動保険に自動加入となり、あわせて活動支援助成の申込み対象にもなります。

| | 5年度 | 4年度 | 3年度 |
|------------|------|------|------|
| グループボランティア | 78団体 | 82団体 | 91団体 |
| 個人ボランティア | 45名 | 48名 | 52名 |

◎5年度中新規登録・・・4団体

子どもの集い場(1)、演芸(1)、集い場(2)

◎5年度中活動終了・・・8団体グループ、個人3名

給食調理ボランティア(4)、環境活動(1)、ふれあい喫茶(2)、体操(1)、給食配食(3名)

(2) ボランティア活動支援助成

社協ボランティアセンターに登録し、年3回以上継続活動されるボランティア活動者に活動にかかる経費の助成をおこなっており、5年度は43グループ(上限30,000円、新規立ち上げ50,000円、個人ボランティア上限10,000円)に総額1,232,107円を助成しました。

(3) 各地区ミニデイへの運営の協力、支援

ミニデイや地域の集い場などに職員が計14回出向き、映画鑑賞やレクリエーションの提供を行うことを通してボランティアさんとの意見交換をおこなっています。

②
ひとりぼっちを
つぐらない

(4) 1. 17のつどいへの協力

阪神淡路大震災の犠牲者への追悼と震災から生まれた絆を語り継いでいくため、毎年開催されている「阪神淡路大震災1.17のつどい」へ送る竹筒の提供を老人クラブの皆さんを中心にお願ひしたところ、620本もの竹筒が集まりました。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

（５） 善意の物品預託

住民、企業、団体の皆様から合計 69 件（57 名）の預託を受けました。

| 内 容 | 数量 | 預託件数 | 払い出し先 |
|-----------|----------|------|---------------------|
| ぞうきん | 286 枚 | 2 件 | 町内の各学校、施設へ |
| 衣類、肌着 | 多数 | 12 件 | 生活困窮者、新品は福祉バザーへ |
| 介護用品 | 11 点 | 6 件 | 町内福祉施設、必要な方へ ※一部保留中 |
| 介護用紙おむつなど | 多数 | 12 件 | 必要な方へ ※一部保留中 |
| 食品 | 多数 | 3 件 | 生活困窮者、福祉バザー等へ |
| 生活雑貨 | 多数 | 10 件 | 福祉ぶちショップ、福祉バザーへ |
| 商品券 | 2,000 円分 | 1 件 | 保留中 |
| 手作り巾着袋等 | 多数 | 2 件 | 福祉給食サービス利用者へ |
| お米 | 975 kg | 21 件 | 生活困窮者、福祉施設等へ ※一部保留中 |

※保管期間は半年以内としています。

7. 災害対応

（１） 社協災害対応マニュアルの改定とBCPの策定

災害時の参集基準や初動、組織体制などを定めた社協災害対応マニュアルの改定及び、各事業所の事業継続計画（BCP）を策定しました。

⑧
地域で
防災・減災

（２）福祉避難所

10 月に、社協と町で多機能型事業所ひと花を福祉避難所とする協定を結びました。特に災害時における障がい者の受け入れ先としての役割を果たします。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

8. 居宅介護サービスの提供

☆ 居宅介護サービス〔4 事業総計〕

| | 報酬総額 | 前年度比較 |
|------|--------------|--------|
| 3 年度 | 68,894,736 円 | －5.8% |
| 4 年度 | 69,313,529 円 | ＋0.6% |
| 5 年度 | 60,859,178 円 | －12.1% |

※介護プランを作成したり介護サービスを提供すれば、国や一部利用者から報酬が得られる

① 訪問介護事業〔自宅にて食事やトイレの介助、掃除や調理などのサービスを提供〕

| | 事業報酬 | 前年度比較 |
|------|----------------|---------|
| 3 年度 | 25, 526, 809 円 | －3. 0% |
| 4 年度 | 25, 067, 893 円 | －1. 8% |
| 5 年度 | 22, 154, 588 円 | －11. 6% |

② 訪問入浴介護事業〔自宅へ浴槽を持ち込み、寝たきりの方の入浴サービスを提供〕

| | 事業報酬 | 前年度比較 |
|------|---------------|---------|
| 3 年度 | 8, 293, 967 円 | －28. 3% |
| 4 年度 | 6, 123, 018 円 | －26. 2% |
| 5 年度 | 559, 720 円 | －90. 9% |

※看護師資格職員の採用が出来ず、5 月 21 日から事業を休止し、利用者に対しては他の入浴事業者を紹介したりケアマネジャーに代替サービスを提案してもらうなどしました。その後も看護師を募集しましたが確保することができず、事業所の指定更新の期限日の 11 月 6 日付をもって事業を廃止しました。

③ 居宅介護支援事業〔要介護者が必要とする介護サービスの利用計画を作成〕

| | 事業報酬 | 前年度比較 |
|------|----------------|--------|
| 3 年度 | 27, 864, 660 円 | ＋7. 2% |
| 4 年度 | 26, 823, 640 円 | －3. 8% |
| 5 年度 | 27, 636, 820 円 | ＋2. 9% |

④ 障害者居宅介護・同行援護・移動支援〔障がい者へのホームヘルプサービス等を提供〕

| | 事業報酬 | 前年度比較 |
|------|----------------|---------|
| 3 年度 | 7, 209, 300 円 | －21. 9% |
| 4 年度 | 11, 298, 978 円 | ＋56. 7% |
| 5 年度 | 10, 508, 050 円 | －6. 9% |

※障がい者の外出時の介助サービスをおこなう「移動支援」事業については、利用者ニーズが高まる中、12 月 1 日から新たに市川町の指定事業所になる。

（１）研修への講師派遣

兵庫県福祉人材センター（神戸）などで県内の介護支援専門員を対象に兵庫県が開催する更新研修等において、本会職員（主任介護支援専門員）1 名が計 8 回（述べ 15 日）、研修の講師を務めました。

（２）介護職員育成研修事業

市川町社協と共催し、介護福祉士実務者養成研修（通信）を 6 月から半年間かけて開催し、町内外から介護福祉士を目指す 13 名が受講し、全員が修了しました。



なお、この研修を開催するにあたり4事業者（市川町社協、うぐいす荘、あやめ苑、デイサービスゆる結す）から協賛金が得られました。

（３）介護サービスに関する資格取得の推奨

主任介護支援専門員研修（12日間） 1名修了
 同行援護従事者養成研修（7日間） 1名修了



（４）サービス提供日（営業日）の拡充

訪問介護サービスは土日祝についても利用ニーズが高いことから、4月1日より土曜と祝日も通常の営業日に改め、また日曜日は引き続きサービス提供は相談に応じるとして、在宅介護サービスの安定的提供に努めました。



9. 障がい者活動支援施設の運営

（１）多機能型事業所ひと花

生活介護サービス・就労継続支援B型サービス〔利用者へ提供したサービスに対する報酬〕

| | 報酬総額 |
|-----|--------------|
| 3年度 | 23,326,562 円 |
| 4年度 | 27,746,381 円 |
| 5年度 | 28,749,275 円 |

- ・姫路十字会からの助成（42.1万円）を受け、草刈り機とブロワ、物置をそれぞれ購入。
- ・中播磨地区赤十字奉仕団からの助成（1.5万円）を受け、CDラジカセを2台購入
- ・神河町赤十字奉仕団からの助成（3万円）を受け、玄関ロビーに掲示用ボードを設置。

※障がいの重い方が利用する「生活介護」サービスについては、生活の場、居場所のさらなる充実を目指し、4月1日より祝日を通常のサービス提供日（営業日）に改めました。

（２）指定特定相談支援事業所〔障がいのある方が利用するサービスの計画書を作成〕

| | 事業報酬 | 前年度比較 |
|-----|-------------|--------|
| 3年度 | 1,096,630 円 | －7.0% |
| 4年度 | 1,137,930 円 | ＋3.7% |
| 5年度 | 143,950 円 | －87.3% |

※資格を有する人員の確保が出来ないため、5月1日から休止中。利用者には他の相談支援事業所を紹介し、全員切り替えてもらいました。有資格職員の募集をおこなっていますが応募はありません。

（３） 神河町障がい者基幹相談支援センターの受託運営

障がい者やその家族の悩みを相談するための最初の窓口事業として、町から委託を受けていますが、４月末で退職した職員の後任が確保できないため、資格を有する既存の職員が兼務しています。

※有資格職員を年度途中で採用したがすぐに退職

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

（４） 神河町障がい者等緊急時一時預かり事業の受託

親が突然、事故や病気となり、障がい者（児）が急きょ短期入所サービスを利用しようとしたができない場合、一晩お預かりする町独自の事業を受託しています。

その場合、ひと花の部屋を使い、社協介護職員等が付添いします。

５年度の利用はありませんでした。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動